

概要

南信州広域連合では、リニア時代を見据えて、2010（H22）年11月に、「リニア将来ビジョン」を策定し、目指すべき地域像を明らかにしました。

この地域像の実現に向けては、リニア効果を活かすための取組を全市的に明らかにするための工程表を示し、開業に向けた準備が遅滞なく進められることが必要であることから、2013（H25）年4月に「リニア推進ロードマップ」を策定しました。

2017（H29）年度に、2017（H29）年度からスタートした「いいだ未来デザイン2028」（飯田市総合計画）や、これまでの国・県の動きや計画等も踏まえ、「リニア推進ロードマップ」を全面改訂し、以降毎年時点修正を行っています。

「リニア推進ロードマップ」は、推進期間をリニア開業翌年の2028年までとし、「リニア本体工事関連」「社会基盤整備関連」「戦略的地域づくり」という3つの分野で、より効果的な推進が図れるように、「いいだ未来デザイン2028」戦略計画等と連動させて取り組みます。

リニア将来ビジョン【南信州広域連合】

小さな世界都市

多機能高付加価値
都市圏

守るべきもの
備えるべきもの

多様な主体

目指す地域像の具現化



※1.基本的方向…基本構想の実現に向けて、前期・中期・後期の4年単位で戦略的かつ重点的に取り組むもの

※2.戦略計画…基本的方向の実現に向けて、毎年、具体的に取り組むもの

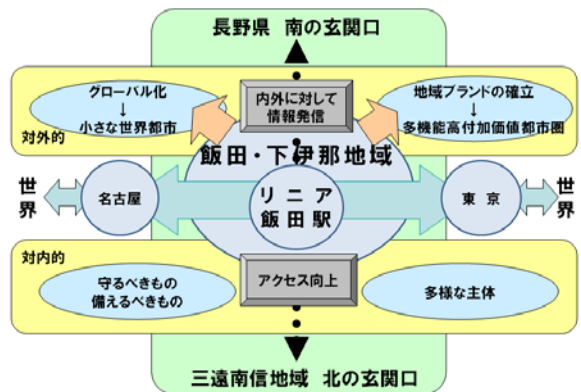
※3.分野別計画…各分野において総合的に取り組むもの(地域経済活性化プログラム、観光振興ビジョン、土地利用基本方針、駅周辺整備基本計画、飯田市教育振興基本計画等)

1 リニア将来ビジョン

リニア中央新幹線の飯田駅の設置を見据えて、飯田下伊那地域は地域の外と内に対してそれぞれ目指す地域像を次のとおり明示し、まちづくりを進めます。

1 対外的に目指す地域像

飯田下伊那地域が、外来者の舞台になることや地域外に情報を発信することにより、日本のモデル的事業の展開や世界で誇れるような地域になることを目指します。



グローバル化（国際性）～小さな世界都市へ～

リニア中央新幹線の実現は、国内はもちろんのこと、海外との繋がりもこれまで以上に高まり、グローバル化を促進させます。このグローバル化と人のつながりを大切にする風土を活かして小さな世界都市を目指します。

地域ブランドの確立～多機能高付加価値都市圏へ～

リニア中央新幹線の開通により多くの人と情報が往来します。このことは、飯田下伊那地域として、地域ブランドを確立することの重要性が増すことを意味します。そこで、飯田下伊那地域の地域ブランドを確立し、先駆的なモデル都市になるような多機能高付加価値都市圏を目指します。

2 対内的に目指す地域像

リニア中央新幹線の開通による地域の変化には、地域が主導権を持つて対応することが重要です。先人が培ってきた文化や伝統を守りながら、今後も飯田下伊那地域の住民が、地域のことを自分たちで考えるまちづくりを進めます。

多様な主体

飯田下伊那地域に今も残る「結い」の精神を大切に、今後も住民が自ら活躍する地域、多様な主体が活躍する地域を目指します。

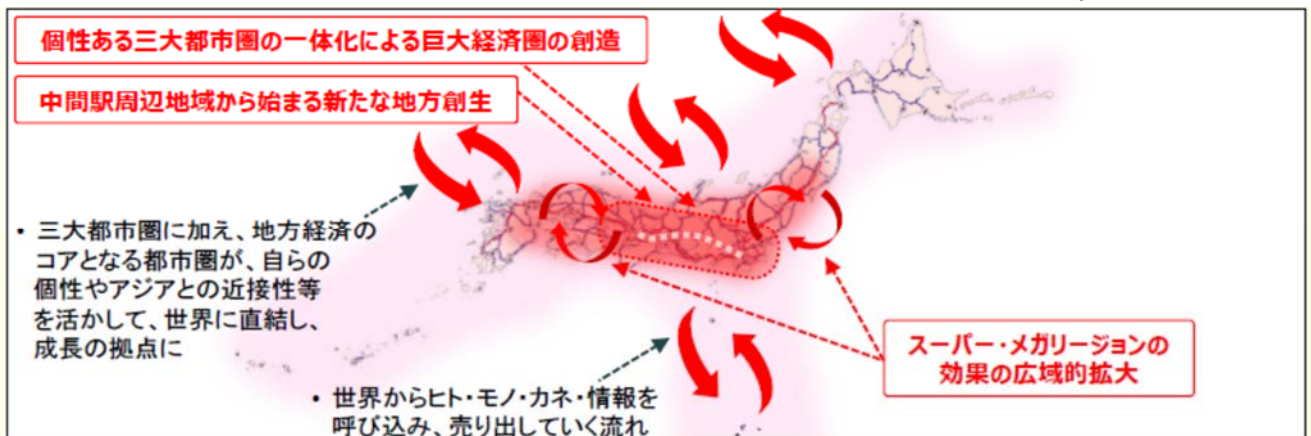
守るべきもの、備えるべきもの

「守るべきものは守って未来に伝え、備えるべきものは備えていく」という理念に基づいた地域づくりを目指します。

2 国土形成計画とスーパー・メガリージョン構想検討会

リニア中央新幹線は、その開業によって、三大都市圏が約1時間で結ばれ、世界からヒト、モノ、カネ、情報を引きつけ、世界を先導するスーパー・メガリージョンが形成されることが期待されており、国土形成計画（平成27年閣議決定）においても、その効果を最大化し、全国に波及させるための取組の必要性が示されています。こうした経緯を踏まえ、国・地方公共団体・経済団体の共通のビジョンの構築を図るべく「スーパー・メガリージョン構想検討会」を、2017（H29）年9月に設置しました。

2018（H30年）7月に中間とりまとめがされ、2019（R元）年5月に最終とりまとめがされました。



中間駅周辺地域から始まる新たな地方創生

(1) 目指す方向性

- ◆ 中間駅は、多様な人材が活発に行き交いクリエイティブな交流が生まれる、三大都市圏とは異なる新しい知的対流拠点となる可能性を秘めている。そして、そこで創出される高度な付加価値が、周辺地域の魅力と融合することで、地域の強みを活かした新しい産業の創出や、既存産業の高付加価値化に寄与することが期待される。
- ◆ 中間駅周辺地域は、リニア中央新幹線による劇的な時間短縮により、ICT を活用した多様な働き方やジョブ型雇用等の普及と相まって、大都市で働きながら自然豊かな地域で暮らしたり、ライフステージに応じた住み替え先となるなど、新たな居住の選択肢を提供する地域に発展していくことも期待される。
- ◆ Society5.0 が目指す地域の課題の解決や持続可能な社会の形成に貢献するなど、独自性と先進性に優れた質の高い地域として、革新的技術の集積と周辺の豊かな自然環境と融合した全く新しいコンセプトのライフスタイルを世界に発信していくことが期待される。

(2) 求められる取組

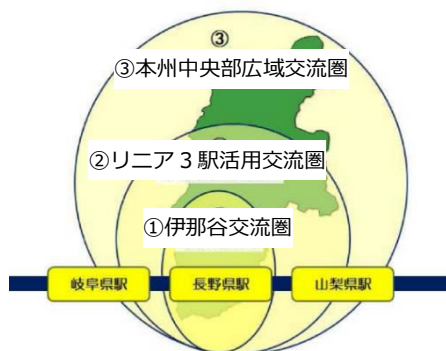
- ◆ 多様な対流による価値創造に向けては、地域の強みを活かした産業を育成するとともに、圏域を越えた人的ネットワークの構築、産業クラスター同士の連携によって、新世代の新たな産業へと発展させていく。
- ◆ 地域独自の豊かなライフスタイルの形成に向けては、自然豊かな居住環境・多様なツーリズム・社会参画のプラットフォーム等の形成に向けた取組を推進していく。
- ◆ 地域内の人々の主体的取組と、地域外の人材の知見を融合するような、多面的かつ密接な連携・協働が求められ、様々なアイデアを出し合うことで地域のシンボリックなプロジェクトを形成し、地域づくりを推進していくことが求められる。
- ◆ 多様な主体の参画の拡大に向けては、都市とは異なる地域本来の魅力を大切にする価値観をもち、その地域に関心や関与を深める人材とのネットワークを広げるアプローチ等により、関係人口を拡大させていくことが求められる。

3 長野県リニア活用基本構想（長野県 2014（H26）年3月策定）

リニア時代を見据えた地域づくりの指針であり、リニアの整備効果を地域振興に活かすための取組などをまとめています。

リニア中央新幹線による様々なインパクトを享受するため、「3つの交流圏構想」を掲げ、特に「伊那谷交流圏構想」では、地域振興及び基盤整備の方針についてまとめています。

3つの広域交流圏構想のイメージ



伊那谷交流圏構想（項目抜粋）

「地域振興」

- リニアを活かした産業振興
- 信州暮らしの魅力向上
- 広域観光の推進

「基盤整備」

- 魅力ある駅空間の創造
- 良好なアクセスの確保

4 リニアバレー構想 ～信州・日本の伊那谷から世界の INA Valley へ～

(リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議 2016 (H28) 年2月策定)

リニア活用基本構想を踏まえ、リニア駅の駅勢圏である「伊那谷交流圏」を今後どのように形成していくかの指針としてまとめています。

リニアの整備効果を最大限に活用して、地域発展の原動力とすることで、身近になる大都市や世界の活力を引き寄せ、豊かな自然環境の中で地域も人も輝く「リニアバレー」実現を目指しています。

1 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点 ～世界とつながる～

グローバル産業や研究開発機関、航空産業クラスター、メディカルバイオクラスターといった新たな時代の産業の集積と次世代産業の創出を進めます。

2 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点 ～日本を支える～

首都圏と中京圏の中間に位置し、リニアを活かした時間短縮効果を最大限発揮できる地の利をいかすことで、首都機能や企業の中核機能のバックアップを果たします。

3 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」 ～ここで豊かに暮らす～

都市圏への通勤や二地域居住、週末農業など新たなライフスタイルを提案するとともに、豊かに暮らすための地域づくりや魅力ある自然環境の保全と景観の形成を進めます。

4 世界から人を呼び込む感動フィールド ～ここでふれあう～

インバウンドも含めた広域観光の促進により交流人口を拡大させるため、美しい信州の原風景や文化を活かした広域観光ルートづくりや体験型観光の促進を図ります。

5 しあわせ信州創造プラン 2.0 南信州地域計画 (長野県 2018 (H30) 年3月策定)

2018年から2022年までを計画期間とする県総合計画の「地域計画」です。(県南信州地域振興局策定)

リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の整備は、南信州地域の新たな時代の幕開けであり、地域の更なる発展が期待されています。このような地の利を活かし、三大都市圏によるスーパー・メガリージョンの一翼を担うとともに、「リニア新時代」にふさわしいフロンティアとなるべく、次のような地域をめざします。

1 研究開発型企業の集積地域

- ・大学、公設研究機関、ベンチャー企業等が同居した研究開発支援拠点の整備
- ・県外企業が研究開発部門を移転、地域企業が研究開発分野に進出
- ・航空宇宙、次世代自動車、医療・バイオ等の成長分野に取り組む企業が集積

2 交流の一大拠点地域

- ・リニア中央新幹線長野県駅や三遠南信自動車道とのアクセス道路網の整備
- ・MICEの誘致やインバウンド対応による国際交流、広域観光の拠点

3 ICT活用教育・学びの先進モデル地域

- ・超高速通信回線の整備促進により、ICTと地域の特性(豊かな自然環境、伝統芸能等)を融合させた特色ある学びを实践
- ・遠隔生涯学習講座など、ICT環境を地域住民の学びの基盤として利活用

4 二地域居住やU I Jターンの全国モデル地域

- ・大都市圏との時間短縮効果と大自然との近接性を活かした「行ってみたいまち、住んでみたいまち」=「南信州」ブランドの確立
- ・サテライトオフィス等による遠隔勤務、二地域居住やU I Jターンなど多様なライフスタイルを営む拠点

6 リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

リニア中央新幹線の整備を上伊那地域、南信州地域の広域的な地域振興につなげ、伊那谷全体の発展に資することを目的として、平成 25 年 8 月に設置されました。

知事を座長とし、飯田市・伊那市・駒ヶ根市の各市長、南信州広域連合・上伊那地域広域連合の各代表、上伊那・南信州地域振興局長、伊那・飯田建設事務所長が構成員となっています。

リニア中央新幹線の整備を「リニア活用基本構想」における「リニア 3 駅活用交流圏」（長野県駅、山梨県駅、岐阜県駅の駅勢圏）の地域振興につなげるため、2019（令和元）年度から、木曽地域からも参画することとなりました。（木曽広域連合代表、木曽地域振興局長がオブザーバー参加）。

<これまでの主な検討内容>

「リニア駅からの交通体系（二次交通）《今後の検討の方向性》」（2017（H29）11月会議資料）

1. リニア駅とつなぐ

- ① 地域の交通結節点の拠点性向上
- ② リニア駅と伊那谷各地との移動
（来訪者と居住者の視点を考慮した交通ネットワークと移動手段）

反映

■ 交通の視点・関連要素

- アクセス調査の結果
- 交通関係の各種検討会や実証実験の成果
- 交通事業者との意見交換
- 自動運転技術・制度の動向

■ 観光の視点・関連要素

- 来訪の目的となり得る魅力的な観光資源の創出・認知の向上

2. 飯田線活性化

- ① 速達性・利便性向上
- ② 観光資源としての活用
➔ 別添「地域課題検討の視点」参照

連携

- 関係機関との連携
（JR飯田線活性化期成同盟会、広域DMO等）

3. 乗換新駅設置

- 設置に向けた協議開始
 - ・ J R 東海との具体的な内容検討
 - ・ 費用負担のあり方

協議

- J R 東海との協議、課題の共有

来訪者視点

- リニア駅と目的地を直接つなぐ（直行便）
- リニア駅と地域の交通結節点をつなぎ、さらに交通結節点から目的地をつなぐ
（リニア駅 ⇄ 地域の交通結節点 ⇄ 目的地）

居住者視点

- リニア駅を中心に、移動方面別に拠点性を有する地域の交通結節点を核とした交通ネットワークを形成する
- 将来に向けた地域の交通及び来訪者の移動等と一体的に検討する

3

<リニアバレー構想実現に向けた当面の取組>

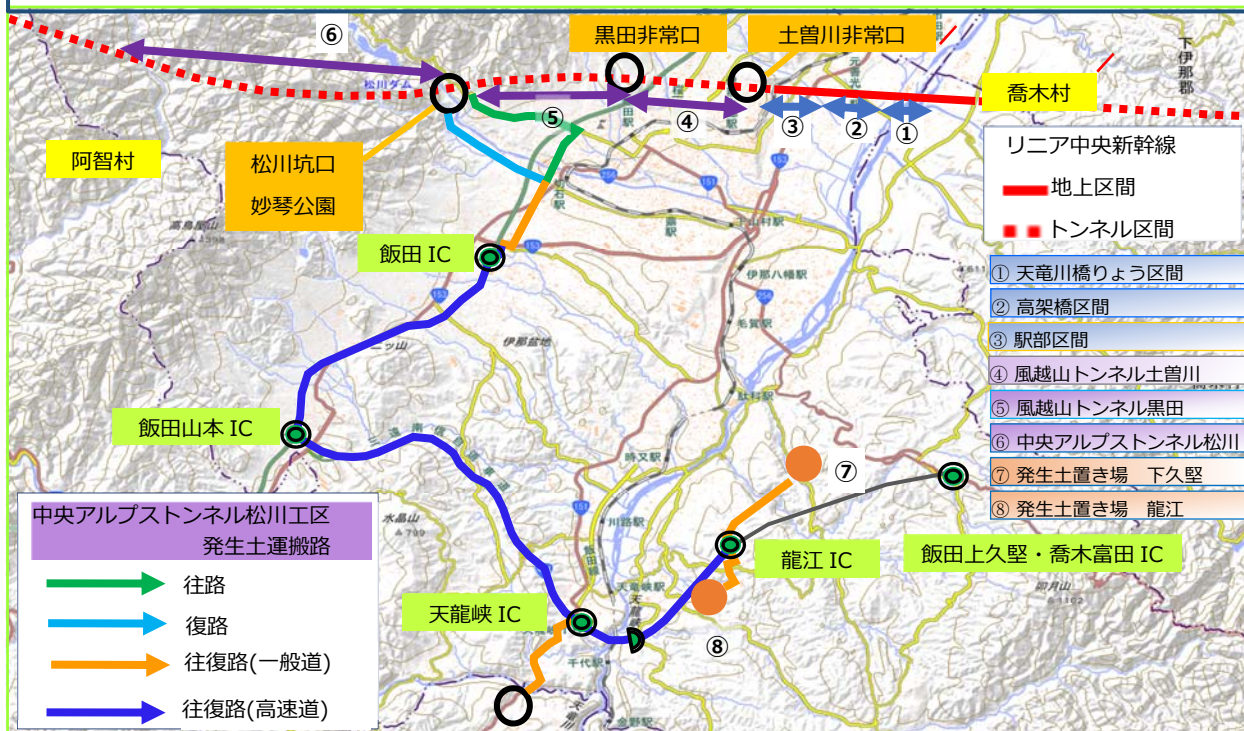
- ・ 民間団体と問題意識、取組の方向性を共有しながら、連携して取り組んでいく。
- ・ リニアバレー構想実現プラン（仮称）を官民連携で作成し、具体的な取組を推進する。

柱 1. リニア本体工事関連

2027 年リニア開業が着実に実現するよう、J R 東海によるリニア本体工事の推進に関する事業全般を総括するものです。関係地権者、地域に対し丁寧な説明を行い、合意形成のもと進めていきます。

1. リニア本体工事関連

- ・ 地上区間の高架橋部・駅部は 2019 (H31) 年度より用地取得に向けた協議を始めており、2020 (R2) 年度も引続き、用地協議を進めて参ります。
- ・ トンネル区間では、2018 (H30) 年2月より妙琴公園及び対岸の猿庫モータースポーツランド付近で中央アルプストンネル掘削に向けた準備工事が進められており、2020 (R2) 年度より掘削開始が予定されています。
- ・ 発生土置き場は、地権者及び関係地区と協議を進めており、2020 (R2) 年度は下久堅地区で準備工事、盛土造成が予定されています。



地上区間

- 天竜川橋りょう区間 (①)
- 高架橋区間 (②) 駅部区間 (③)

- ・ 天竜川橋りょう区間①は、2020 (R2) 年度に工事説明会、秋以降工事着手予定
- ・ 高架橋区間② (座光寺地区)、駅部区間③ (上郷北条地区) とともに、2020 (R2) 年度は用地協議を進めます。また、駅部区間に置いて、一部道路付替え工事に着手予定

トンネル区間

- 風越山トンネル土曾川 (④)
- 風越山トンネル黒田 (⑤)
- 中央アルプストンネル松川 (⑥)

- ・ 風越山トンネル土曾川④は、シールド工法による工事計画を策定中
- ・ 風越山トンネル黒田⑤は、2020 (R2) 年度からの準備工事着手に向けて調整中
- ・ 中央アルプストンネル松川⑥は、引き続き妙琴公園及び猿庫モータースポーツランドの準備工事と、運搬路の道路改良 (待避所設置) 工事を行い、2020 年 (R2) 度中にトンネル掘削を開始予定
- ・ トンネル区間 (野底川以西) の水資源に係る具体的な調査 (事後調査及びモニタリング) を 2019 (H31) 年1月から開始し、2020 (R2) 年度も引き続き調査実施

発生土置き場

- 下久堅 (⑦) 龍江 (⑧)

- ・ 下久堅⑦は、具体的な造成計画・維持管理計画策定後、2020 (R2) 年度中に工事説明会を開催し準備工事及び河川改修に着手、2020 (R2) 年度第4 四半期に盛土造成予定。造成後に土地改良事業を実施
- ・ 龍江⑧は、測量・地質調査に向けて地元調整を継続実施。
- ・ 他、発生土置き場確保に向けて J R 東海及び地権者・関係地区と調整。

2. 地域の自然・住環境への配慮

地域の自然・住環境へ配慮した工事計画に向けた調整

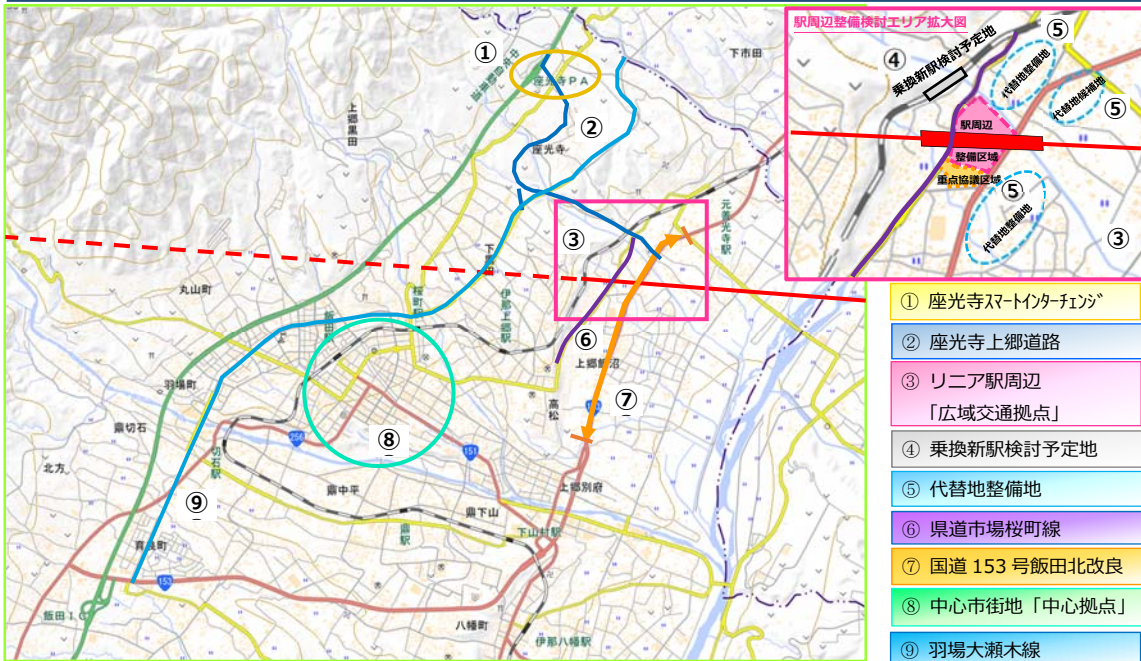
- ・ 工事や工事用車両の通行による地域への影響を低減するため、工事関係地区と確認書を締結
- ・ 確認書に基づく、具体的な住環境の保全対策、交通安全対策、造成後の維持管理 (発生土置き場) 等に関する協議
- ・ 環境影響評価事後調査・モニタリング調査結果の速やかな公表を求め、地域との情報共有を図る
- ・ 工事に起因した様々な影響を想定した対応マニュアル (通報態勢、対応、公表等) の整備
- ・ トンネル発生土運搬路は高速道路の利用を主体とし、市民生活への影響の低減を図る
- ・ 地上区間 (高架橋部) の環境対策工 (防音防災フード) に関する要請・調整
- ・ 発生土置き場の確保に向けて引き続き調整
- ・ 環境影響に関する視察研修勉強会等の実施、必要に応じた環境データの収集等

柱2. 社会基盤整備関連

長野県をはじめとする関係機関と連携しながら、リニアの整備効果を広範囲に拡げるための交通ネットワークの整備や、リニア駅周辺の社会基盤の整備を行う事業全般を総括するものです。

1. リニア時代を支える都市基盤整備

- ・ 代替地整備は、地権者や移転をお願いする皆さまのご意向を確認しながら整備計画の策定を進め、先行している部分では2020（R2）年度の秋期には、一定範囲の区画整備が完了する予定です。
- ・ 2020年（R2）より、「リニア駅周辺整備実施設計」に着手し、具体的な検討を進める予定です。
- ・ リニア関連道路整備は、2020（R2）年度は残りの用地測量、物件調査を進め、併せて用地補償契約をお願いしていく予定です。



- ・ 移転をお願いする皆さまとの具体的な協議を進めるとともに、代替地の確保、整備に取り組み、ご移転に当たってのご不安やご心配が払拭され、安心して新たな生活を構築していただくことができるよう、市として責任ある対応
- ・ 丹保北条地区は道水路や宅地造成工事を進め2020（R2）年秋期の一定範囲の整備完了に向けて事業実施
- ・ 唐沢宮の前地区は、2020（R2）年4月以降道路及び造成地用地取得、更に道路、代替地整備に着手し、2020（R2）年度末の整備完了に向けて事業実施
- ・ 共和地区は、代替地として希望する方々の意向を把握するとともに、計画策定に向けた検討実施

●代替地整備スケジュール(予定)

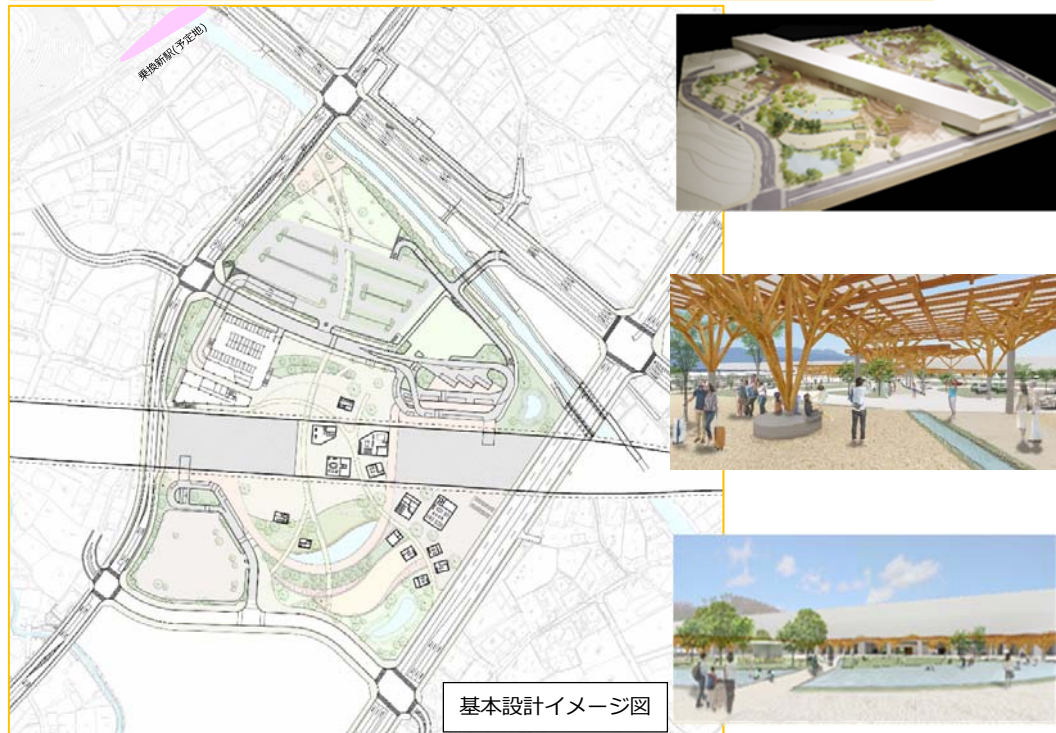
リニア本線及び関連事業の整備推進 (5)

	2020年度				2021年度				
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
丹保北条地区	希望受付・調整・売却				丹保北条代替地へ、移転可能				
					希望受付・調整・売却				
	道路工事				1工区完成		2工区完成		
唐沢宮の前地区	希望受付・調整・売却				唐沢宮の前代替地へ、移転可能				
	道路工事				完成				
	道路・造成用地				造成工事				

柱 2. 社会基盤整備関連

リニア駅周辺整備 (③、④)

- ・ 2020年（R2）より、「リニア駅周辺整備実施設計」に着手
- ・ 長野県の南の玄関口、三遠南信地域の北の玄関口として、信州・伊那谷の自然や文化の魅力を発信するとともに、地元をはじめ地域内外の多様な価値観・目的を持つ様々な人が集い交流する拠点となるよう、また、様々な交通手段（高速バス・路線バス・JR飯田線・タクシー・レンタカー・カーシェアリング等）へのスムーズな乗り換えが可能な広域交通拠点となるよう、具体的に検討



基本設計イメージ図

駅勢圏拡大に向けた道路ネットワークの強化 (①、②、⑥、⑦、⑧)

- ・ リニア整備効果が広域的に波及できるよう、座光寺スマートインターチェンジ、リニア関連道路、三遠南信自動車道を基幹とする良好な道路ネットワークを整備
- ・ 国道153号飯田北改良及び座光寺上郷道路は引続き、用地協議を実施
- ・ 県道市場桜町線についても引続き、用地協議を実施
- ・ (仮称)座光寺スマートIC、2020（R2）年度末供用開始予定

二次交通構築と持続可能な地域公共交通実現

- ・ リニア利用者の利便性を高め、より広域的にリニア駅利用が可能となる二次交通の整備について、自動運転技術等の活用を見据えた検討

リニア時代を見据えた良好な土地利用の推進 (②、③、⑦)

- ・ 適正な土地利用と良好な景観保全に向けた制度や計画づくりの推進
- ・ 各地区において地域土地利用方針の検討

2. 地元地域の生活環境・暮らしへの配慮

地域の生活環境・暮らしへの配慮

- ・ 地域コミュニティを維持できるように生活道路やコミュニティ活動の場を整備
- ・ 生活環境への影響を回避・低減できるように事業者や工事関係者と随時調整

柱3. 戦略的地域づくり

中間駅が設置される飯田市は、ナレッジ・リンク（知的対流）の一翼を担う、田園型学術研究都市（高付加価値都市圏）づくりに向けた取組を進めています。2019（平成31年）1月には、エス・バード（産業振興と人材育成の拠点）が活動を開始し、その実現に向けた大きな一歩を踏み出しました。

2019（令和元年）5月のスーパー・メガリージョン構想検討会最終とりまとめでは、中間駅周辺地域は、リニアによる東西の連携軸と南北に延びる高速道路との連結強化により、知的対流拠点に発展するとともに、新たなライフスタイルを提供していく地域となるなど、“中間駅周辺地域から始まる新たな地方創生”が期待されるとしています。当地域は、整備が進む三遠南信自動車道とあわせ、スーパー・メガリージョンの効果が広域的に拡大され、日本の十字路としての役割を果たすことが期待されます。

また、飯田版地域循環共生圏の取組をベースに、新たなモビリティ（自動運転・EV・MaaS等）などの先端技術をミックスさせ、リニア駅周辺を中心とした『飯田版のスマートシティ』のモデル構築に取り組みます。

一方、伊那谷自治体会議では、今後、リニアバレー構想の実現に向け、リニアバレー構想実現プラン（仮称）を作成し、官民が連携して具体的な取組を推進していくこととしています。

※下記の項目は、「リニア駅周辺整備基本計画」の「2.リニアによるまちづくり戦略」に沿った構成とし、主な取組は、「いいだ未来デザイン2028」の「2020（令和2）年度戦略計画」等から抜粋。進捗状況確認指標については省略しています。

※「リニア活用基本構想」及び「リニアバレー構想」の詳細はP3参照

産業

若者が帰ってこられる産業をつくる

長野県リニア活用基本構想

I

リニアバレー構想

1・2

<戦略（考え方）>

- 地域産業の持続的発展に資する研究開発力の強化を図るとともに、新産業の創出、地域産業の高付加価値化への挑戦を支援します。
- 長野県や南信州広域連合などと連携協調し、地域の産業拠点としての「産業振興の知の拠点」整備を推進します。
- 地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成に取り組みます。

<主な取組>

◆新産業の創出と地域産業の高付加価値化

- ・航空機産業に取り組む意欲のある企業の育成と航空機関連企業等の誘致を推進
- ・商品の高付加価値化に向けたチャレンジを支援
- ・海外マーケティング活動を展開して販路を拡大
- ・海外チャレンジに取り組む意欲ある農業法人や生産団体の取組を支援

◆地域産業の将来を支える担い手確保・起業家育成

- ・高校生と地元企業の結びつきが強まる「つなぐ事業」の拡充
- ・インターシップの受け入れ企業を増やし、魅力的な企業づくりに向けた取組を支援
- ・起業家支援や飯田市新事業創出支援協議会 I-P o r t の運営により新事業創出とビジネス支援を推進

◆産業振興と人材育成の拠点づくり

- ・エス・バード（産業振興と人材育成の拠点）」の機能強化・利用拡大
- ・「信州フードスペシャリスト養成プログラム」事業を実施

文化・スポーツ

自然と歴史を守り、活かし、新たな文化をつくる

長野県リニア活用基本構想

III

リニアバレー構想

3・4

<戦略（考え方）>

- 「伊那谷の自然と文化」をテーマとした学術研究、教育普及、保存継承、活用創造の取組を、行政・教育機関の連携と、市民研究団体及び地域組織等との協働により、総合力を発揮して推進します。
- 「地域振興の知の拠点」の形成を目指します。

<主な取組>

◆「伊那谷の自然と文化」をテーマとした学術研究

- ・菱田春草没後110年を迎える令和3年を控え、市民や研究団体と連携協働して調査研究
- ・「伊那谷の自然と文化」の調査研究を支える人材育成を進める

◆「伊那谷の自然と文化」をテーマとした教育普及

- ・飯田の自然・文化・歴史・活躍した人々などを学び、ふるさと飯田のつながりを知り、誇りや愛着を育むきっかけとするため、小学校6年間のうち最低1回は授業として美術博物館へ来館する仕組みづくり

◆「伊那谷の自然と文化」の保存継承

- ・恒川官衙史跡公園の清水エリア・正倉院北側エリアの整備事業を通じ、見学会や学習会等市民が学ぶ機会を充実。史跡を中心とした「2000年浪漫の郷」の取組を地域と連携
- ・名勝天龍峡について学習会や体験ツアーを開催。地域と協働しパンフレット等を作成
- ・遠山の霜月祭や伝統人形芝居などの後継者育成を支援

◆「伊那谷の自然と文化」を活用し、新たな文化を創造する

- ・各地区の自然歴史文化に関わる地域資源の活用事例をまとめ、市民が地域づくりに活用
- ・AVIAMA（人形の友 友好都市国際協会）への参加や、加盟都市との文化交流や市民への情報提供を通して、「小さな世界都市」実現に向けた取組
- ・中学生期の文化活動の充実を図るための新たな仕組みづくり

◆地域内外の「知が対流」する場の形成に向けた取組の推進

- ・地域内外の専門家人脈、学輪IIDAの知見などをネットワークでつなげ、地域の魅力・課題を共有
- ・共同調査研究の成果を地域に還元するとともに、市民や地域と地域内外の知見とをつなげ、市民の主体的な地域づくりを支援

観光

人の流れをつくる（観光・交流）

長野県リニア活用基本構想
Ⅱ・Ⅲ

リニアバレー構想
3・4

<戦略（考え方）>

- この地域を訪れる人を増やすため、国内外から多くの人を惹きつける魅力づくりに取り組みます。
- 地域の魅力をさらに磨き上げて地域ブランドを構築するとともに、地域の魅力をプロモーションします。

<主な取組>

◆観光産業を基軸とした交流人口の拡大

- ・観光地域づくり法人（DMO）(株)南信州観光公社と連携し、「旅の目的提案」としてのプロモーションを強化し、「インバウンド誘客」や「体験」を視野に地域の観光資源を組み合わせたプログラムを造成、発信、誘客を促進するとともに、ツアーガイドやインストラクターの養成を強化
- ・天龍峡周辺の多様な拠点の活用や周遊滞在型観光の戦略を構築
- ・遠山郷の観光誘客を進め、観光を切り口とした地域振興を推進

◆「小さな世界都市」を目指すブランディング・プロモーションの推進

- ・「東京オリ・パラ」をチャンスとして、国内外の人が「飯田・IIDA」を知って、関心を持ってもらえるプロモーションを展開

地域

人の流れをつくる（移住・定住・二地域居住）

長野県リニア活用基本構想
Ⅱ・Ⅲ

リニアバレー構想
3

<戦略（考え方）>

- リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の全線開通による新しい交通網時代を見据え、世界に誇れる多様なライフスタイルの提案により、移住者の増加を目指します。
- リニア中央新幹線長野県駅を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進します。

<主な取組>

◆飯田だから実現できるライフスタイルの提案と移住の受け皿づくり

- ・関係機関やまちづくり委員会等多様な主体との連携強化によるU・I・Jターン移住の推進
- ・移住希望者の誘導による短期戦略の推進（移住希望のある子育て世代や若者等の層を対象に、飯田の魅力やライフスタイル提案など効果的な情報発信、相談支援）

- ・関係人口の拡大による中長期戦略の推進（都市部に暮らす若者を中心に関係人口を拡大し、将来的な移住定住につなげる。）
- ・地域産業を担う人材確保に向けた移住定住の推進（U・I・Jターン希望者の就業支援）
- ◆**丘のまちの既存ストック魅力増進・連携活用**
 - ・第3期中心市街地活性化基本計画を推進
 - ・ストック活用の視点から、旧ピアゴほか駅周辺の低未利用地・施設を活用した創造空間の研究ほか、居場所、空間づくり
 - ・デジタル技術を活用した「丘のまちメンバーズ制度」や丘のまちフェスティバル、りんご並木周辺イベント、回遊促進事業の推進

交通・環境

新たな基盤となる広域交通拠点・低炭素なまちをつくる

長野県リニア活用基本構想

Ⅳ・Ⅴ

リニアバレー構想

1・2

<戦略（考え方）>

- リニア中央新幹線の整備効果を地域振興に活かすため、その基盤となるリニア駅周辺、座光寺スマートインターチェンジの整備を市民合意形成や協議のプロセスを重要視し、生活環境や自然環境への配慮を踏まえ着実に進めます。
- リニア時代を見据えた地域公共交通と情報基盤の整備を進めます。
- 環境モデル都市飯田として取り組んできたエネルギーの域産域消による地域循環に、新たなモビリティなどの先端技術をミックスさせることで、より快適で便利なエコライフを実現するため、「飯田版のスマートシティ」のモデル構築に取り組みます。

<主な取組>

- ◆リニア本線及び関連事業の整備推進
- ◆リニア駅周辺の整備
- ◆駅勢圏（駅の利用が見込まれる地域）拡大に向けた道路ネットワークの強化
- ◆リニア時代を見据えた良好な土地利用の推進

「柱2.社会基盤整備関連」参照

◆リニアの二次交通の構築及び持続可能な地域公共交通の実現

- ・飯田市地域公共交通改善市民会議や南信州地域交通問題協議会等の場を通じた、利用者、地域、交通事業者、行政が一体となった、持続可能な地域公共交通システムの構築・運用
- ・リニア駅等を拠点とする広域的な視点を踏まえた二次交通の整備の研究
- ・スマートシティの創出に向け、自動運転、EV(電気自動車)、MaaS等新技术を活用した新たなモビリティの研究

※MaaS：複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ、スマホ等により検索・予約・決済等を一括して行うサービス

◆ICT活用による飯田の魅力づくりチャレンジ

- ・利便性の向上、機能の強化に向け、ICT等の新技术を活用した工夫を実践・研究

◆環境学習の推進と環境意識を醸成する人づくりと地域ぐるみで取り組むエコ活動・エコライフの推進

- ・環境学習の推進、環境意識を醸成する人づくり

◆省エネ・創エネ・エネルギーの域産域消を進め環境と暮らし・経済が好循環する地域社会をつくる

- ・リニア駅周辺整備エリア等を、エネルギーの省エネ、創エネ、地域内循環の仕組みを組み込んだモデル的なエリアとするための取組
- ・飯田版ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の取組
- ・EVバスの運行実証の検討・実施
- ・太陽光発電・蓄電池の導入支援

工程表									
取組の柱	項目/年度	2018(H30)迄	2019(H31・R1)	2020(R2)	2021(R3)~2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)		
柱1 リニア 本体工事 関連	住環境保全	環境アセス事後調査・モニタリング調査(水資源、騒音・振動、大気質等) 工事影響を低減する取り組み: 関係地域との合意形成・確認書締結・工事連絡調整							
	中央アルプストーンネル(松川)	2018/2/15準備工事着手・運搬路改良(県道飯田南木曾線・市道大休妙琴線)			トンネル掘削工事				
	風越山トンネル(黒田)	設計・地元説明等			準備工事 ⇒ トンネル掘削工事				
	風越山トンネル(土曽川)	地質調査・施工方法検討・設計・地元説明等			準備工事 ⇒ トンネル掘削工事				
	発生土置き場(下久堅)	設計・地元説明等			準備工事・発生土受入				
	発生土置き場(龍江)	測量地質調査・設計・地元説明等			準備工事・発生土受入				
	駅部区間	用地測量物件調査			用地協議(補償金、移転先など個別協議)・契約・移転 ※一部、道路付替工事 工事着手				
	高架橋区間	幅杭			用地測量物件調査 用地協議(補償金、移転先など個別協議)・契約・移転				
	天竜川橋りょう	移			工事着手				
	柱2 社会基盤 整備関連	リニア駅周辺整備	基本設計		実施設計		埋文調査・土木工事 運営手法の決定~建物設計		建築物
用地物件調査		協		用地協議(補償金、移転先など個別協議)・契約・移転					
国道153号飯田北改良		用地物件調査		議		用地協議(補償金、移転先など個別協議)・契約・移転			
測量・設計						工事着手			
座光寺上郷道路(下段)		用地物件調査		開		用地協議(補償金、移転先など個別協議)・契約・移転			
測量・設計						工事着手			
座光寺上郷道路(上段)		用地物件調査		始		用地協議(個別協議)・契約・移転			
測量・設計						工事着手			
県道市場桜町線		用地物件調査				用地協議(補償金、移転先など個別協議)・契約・移転			
測量・設計						工事着手			
JR飯田線乗換新駅				設置協議		→ 工事			
契約・移転時期						移転可能(代替地登録地・代替地整備地以外)			
代替地登録制度				代替地登録受付		登録地閲覧			
代替地整備(丹保北条地区)	測量・設計		公 整備計画 表 分譲価格 提 示		希望受付・調整・売却 代替地登録地・丹保北条代替地へ 移転可能 希望受付・調整・売却				
代替地整備(唐沢宮の前地区)	測量・設計		公 整備計画 表 分譲価格 提 示		道路工事 造成工事 希望受付・調整・売却 唐沢宮の前代替地へ移転可能				
代替地整備(共和地区)			代替地希望者意向確認		計画策定				
座光寺SIC	測量・設計 用地物件調査				2020年度 供用開始				

リニア中央新幹線 開業